

辛島文雄トリオ+原 朋直

辛 島 文 雄 (からしま ふみお/ピアノ)

九州大学在学中から演奏活動始める。74年にジョージ大塚(Ds)グループで本格的な活動始める。78年にジャズドラマーの巨匠エルビン・ジョーンズとの共演アルバム「ムーン・フラワー」の収録において才能を認められ、エルビン・ジョーンズ＝ジャズマシーンのレギュラーとして80年から85年までの6年間にわたりワールドツアーに参加。このような活動から我が国のトップピアニストとして認知されるようになり国際的にも高い評価を得る。85年、86年にピアノソロ作品を連続して発表。86年に初のソロコンサートを催す。88年に辛島文雄クインテットを当時の若手の逸材である奥平慎吾(Ds)を迎えて結成。このバンドは91年度のスウィングジャーナル誌(以下SJ誌)人気投票バンド部門でポールウィナーに選出された。92年にシドニーで開催された市制150周年記念ジャパン・フェスティバルに招待され、道下和彦(G)とのデュオが好評を博す。93年の収録を機に辛島文雄トリオの結成にあたって若手の逸材である本田珠也(Ds)を抜擢。後に荒巻茂生(B)の参加によりレギュラートリオとして活動が続ける。



現在は自己のトリオを中心に全国規模の活動、日野皓正(Tp)、渡辺香津美(G)、本田俊之(Sax)、奥平慎吾(Ds)、カルロス・ガーネット(Sax)等との共演、角田健一ビッグバンドや神奈川フィルハーモニック管弦楽団と「ラブソディ・イン・ブルー」への客演など多岐に渡っている。最新作として「ランコントロール」辛島文雄et トゥーツ・シールマンスを昨年9月に発表。これは76年の「ピラニア」から数えて20枚目のリーダーアルバムである。辛島文雄はジャズのフィールドから最上のピアノテクニックを確立した実力派ジャズピアニストとして高く評価されており、今日までSJ誌人気投票ピアニスト部門において常に上位に選出されている。

原 朋 直 (はら ともなお/トランペット)

11歳からトランペットを始める。大学時代にジャズ研に所属し、卒業後、プロとして活動を開始する。1992年「大坂昌彦・原朋直クインテット」を結成。デビュー作「ドーン・プレイクス」を録音。SJ誌「批評家投票トランペット新人部門」で第1位を獲得。93年「大坂・原クインテット」第2作「デフ」を録音、翌年発売されSJ誌特選ゴールドディスクに選ばれる。96年、初の単独リーダー作「エビデンス・フォー・マイ・ミュージック」を発表。98年、SJ誌日本ジャズメン読者人気投票コンボ部門で「大坂・原クインテット」が第一位を獲得。99年、NHK BS1のニュース番組「BS22」のオープニングテーマが反響を呼ぶ。



SJ誌「日本ジャズメン読者人気投票トランペット部門」では、97年度から引き続き3年連続第1位を獲得。現在「原 朋直カルテット」でのライブを中心に様々なセッションやコンサート、レコーディング等で活躍。また、大学での講義やクリニック等で後進への指導にも力を入れている。歌心あふれる暖かい音色と瞬発力のある熱いフレーズを聴かせる本邦 No.1 トランペッター。

小 松 伸 之 (こまつ のぶゆき/ドラム)

ギターを弾いていた父親の影響で幼少より音楽に親しむ。小中学生時代は吹奏楽でトランペットを吹いており、高校時代にドラムに転向する。大学進学を機に上京し、各大学のジャズ研究会などで活動した。その頃から原大力(Ds)氏に指示。1998年に椎名豊(Pf)トリオでプロとして活動を開始。現在は辛島文雄(Pf)トリオのほか山口真文(Sax)グループ、西尾健一(Tp)バンド等で活動中。

上 村 信 (かみむら しん/ベース)

大学在学中にベースを始め、90年より名古屋で活動を開始する。92年に大坂昌彦・原 朋直クインテットに参加。94年に上京し、首都圏を中心に多くのセッションで活躍中。安定したビート感覚、バンド全体のサウンドを考えた知的なプレーには定評がある。主な参加作品(Down Breaks/大坂昌彦・原 朋直クインテット、DEF/大坂昌彦・原 朋直クインテットなど)